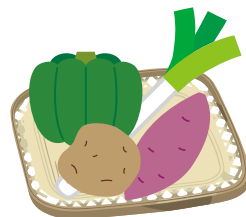


## 食農教育事業



食の大切さ、食を支える農業の大切さを育てることから知ってもらおうと、JAは湊城西小  
学校5年生80人を対象に、農作業体験学習を実施しました。

この体験学習はJA営農事業本部近くの畑を利用して年4回行われ、子どもたちがJA女性部員や能代市農業技術センター職員を講師に、様々な作物の植え付けから収穫までを体験します。



▲佐々木部長がサツマイモ栽培について説明



▲丁寧に種イモを植える児童

初回となる5月2日は、ジャガイモとねぎの植え付けを実施しました。作業前には農業技術センター佐々木副所長が、植え付けを行う農作物の特徴や栽培方法などを丁寧に説明し、子どもたちは興味深く聞き入っていました。その後圃場に移動して、植え付けを開始しました。児童たちは、大きなおいしいイモができることを願いながら丁寧に植えていきました。そのあとねぎの定植にも挑戦。佐々木副所長から教えてもらいながら、チェーンポット苗を専用機械『ひっぱり君』で定植し、優しく土を掛けていきました。

また2回目の5月30日には、サツマイモとカボチャの植え付けを行いました。JA女性部長



▲『ひっぱり君』を使ってねぎの定植も体験

の佐々木博子さんがサツマイモとカボチャに関する説明を行い、さっそくサツマイモの植え付けに取り掛かりました。児童たちはサツマイモの苗の葉が土の外に出るよう、気をつけながら植えていき、その後カボチャも植え元気に育つようにと水を掛けていきました。

佐々木部長は、「自分で植えた



▲女性部員と一緒に楽しく作業



▲植えつけられた4種類の作物



▲たくさんの収穫に期待を込める

野菜を育て収穫し、食べることで苦手の野菜も好きになるかもしれない。子どもたちとふれあいながら、食べ物の大切さを教えていくのが食育であり、女性部の活動です。」と話してくれました。